

レオナルド・フジタ とパリ

げいじゆつ みやこ あい が か

芸術の都に愛された画家

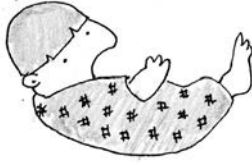
ふじた つぐはる
藤田嗣治



Foujita

とうきょう

1886年11月27日 東京でうまれる



ホギヤー

ようしょうき くまもと

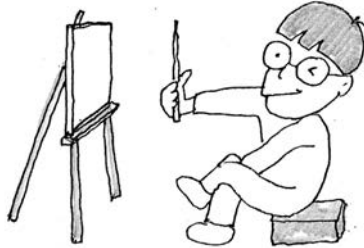
1888年～1898年 幼少期を熊本ですぐす



えをかくのが
だいすきな子どもでした

とうきょうびじゅつがっこう にゅうがく

1905年 東京美術学校に入学



ほんかくてきに
えのべんきょう

1913年 パリに行く

ながーい
ふねのたびでした



で あ はっけん

■ 出会いと発見

フジタはピカソのアトリエを
たずね、ルソーの^え ^み絵を見て

おどろき! はっけん!

^{ひと}人まねではない、^{じぶん} ^え自分の絵を
^か描かなければ・・・



わたしのえの
すばらしさが
わかるかな?

ルソー



ピカソは キュービズムに
むちゅうでした



スバラシイ!!

フジタはパリで^{びじゅつかん} ^が ^{ろう}美術館や画廊など
いろいろ^み ^{まわ}見て回りべんきょうした。
キュビズムなど^{あたら} ^{ひょうげん} ^か ^い新しい表現の絵画や
ルーブル^{びじゅつかん}美術館のギリシャ・ローマ
^{じだい} ^{ちようこく} ^{めいが} ^{にほん} ^{うきよえ}時代の彫刻や名画、日本の浮世絵など
にもひかれていく。

・・・しばいをくりかえしながら、
^じ ^{ぶん} ^{ひょうげん}自分の表現をさがしつつけた。

ゆうじん

■パリの友人たち



しゅうどうじゅうたく

フジタはモンパルナスのアトリエ集合住宅「シテ・ファルギエ

ール」に住むようになり、隣人だったモディリアーニやスーチン、

パスキンやローランサンらと友だちになる。

当時のパリにはたくさんの芸術家たちが集まっていた。芸術に

ついて語り合い、おたがいに励まし合っていた。

フジタもその中の一人・・・モンパルナスに集まった芸術家たちは

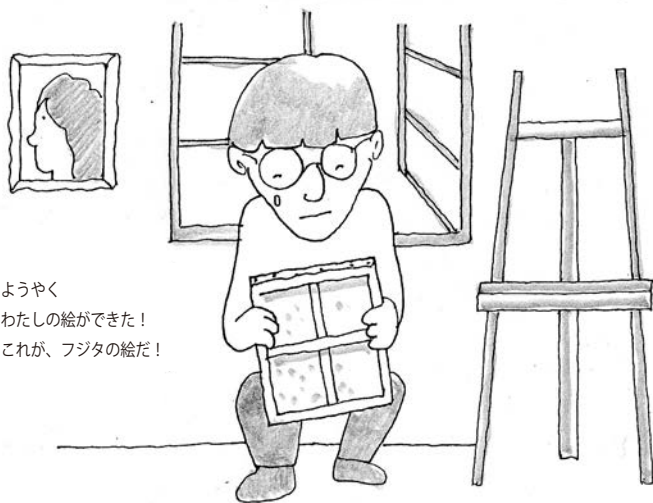
「エコール・ド・パリ」(パリ派)とよばれた。

■^{きやつこう}フジタ・^あ脚光を浴びる

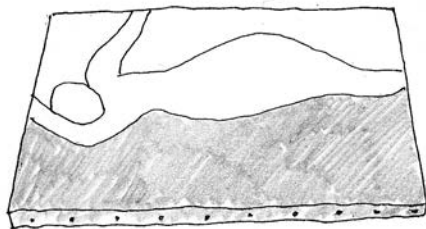
^た食べるものにも^{せい かつ}こまるようなく^かるしい生活でも描きつづけ、
ようやく^{じ ぶん}自分の^{ひょうげん}表現を^み見つけることができた。^{にゅうはくしよく}乳白色の^{した ち}下地に
^{ほそ}細い^かりんかく^{じん ぶつ}せんで描かれた^{せい よう}人物など^{とう よう}・西洋と^{ふる}東洋、古いもの
と^{あた}新しいものが、^えまざりあ^えってうまれたような絵だった。

パリに^つ着いてから7年あまり

フジタは^{だいひょう}エコール・ド・パリ^{が か}を代表する画家になった。



ようやく
わたしの絵ができた！
これが、フジタの絵だ！



おうごん じだい

■ フジタの黄金時代

1920年代、フジタの名声は高まり、作品もどんどん制作されていく。絵もたくさん売れるようになり、画家として成功をおさめた。

パリの友人たちからも慕われ、毎晩、カフェで大さわぎ・・・。

しかし、どんなにさわいだあとでも、アトリエにもどって絵を描いていたというエピソードも残っている。



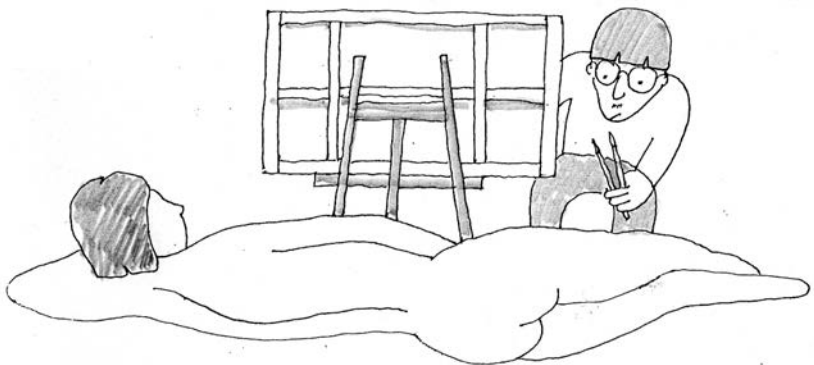
フジタは
すばらしい画家よ

じょせい

■ モデルになった女性たち

フジタは次々と傑作をうみだしていった。

なかでも、モンパルナスのスターであったキキ (アリス・プラン) を描いた人物画はすばらしい作品だと絶賛された。



■ ^{せ かい}世界がみとめる ^{が か}画家



^{ふじたつくはる} 藤田 嗣治 ^{ごにん}《五人の裸婦》^{らふ} 1923年

東京国立近代美術館蔵

フジタは1929年、17年ぶりに、^{にほん} ^{かえ}ユキをつれて日本に帰った。
^{にほんかくち} ^{ごてん}日本各地で個展をひらいたが、^{ようしょうき} ^{おも} ^で ^ち ^{くまもと}幼少期の思い出の地である熊本にも
^{かえ}帰っている。

その後、^ご ^{おとず}アメリカを訪れたときには、すでにフジタは^{せかい} ^{かえ}世界がみとめる
^{が か}画家になっていた。

^{よく}翌1931年、フジタは^む ^{たび} ^だパリをはなれ、ブラジルに向けて旅立った。

レオナルド・フジタとパリ

2013年7月2日～8月25日

熊本県立美術館